

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
3	1	3	老人福祉費	192

部局名	健康福祉部
課名	高齢者支援課

I : 事業概要

施策事業名	高齢者福祉その他
事業目的	高齢者福祉事業に係る事務の効率化を図る。
事業内容	<p>●主な事業内容と決算の内訳</p> <p>○高齢者福祉事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者保健福祉事業推進委員会委員報酬（4回開催）：367,200円 ・犬山市高齢者福祉計画等策定業務委託料（第9次犬山市高齢者福祉計画及び第8次犬山市介護保険事業計画策定に係る業務委託）：2,068,000円 <p>○介護老人福祉施設運営補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム犬山白寿苑運営費補助金（ねたきり高齢者等の生活の安定のため、施設を運営する社会福祉法人への補助）：1,877,217円
事業の成果・効果	令和3年度から令和5年度までを実施期間とする「第9次犬山市高齢者福祉計画」及び「第8次犬山市介護保険事業計画」の策定を行った。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

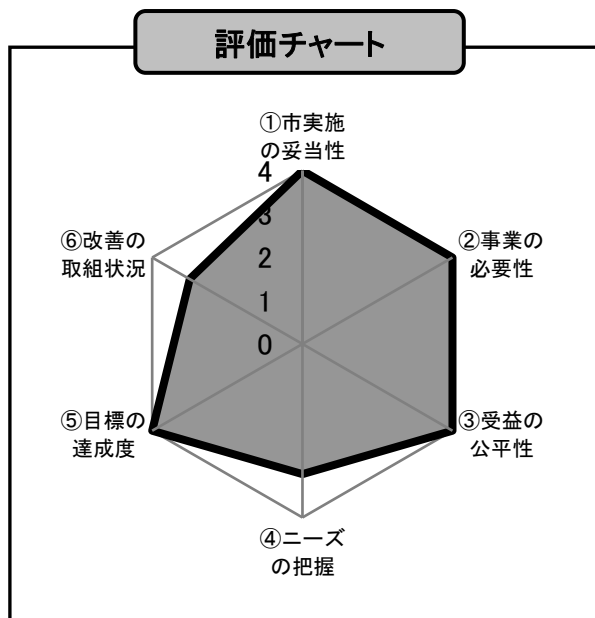
(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
高齢者福祉事務	2,577	0	2,577	100%	2	2	4
介護老人福祉施設運営補助	1,878	0	1,878	100%	4	4	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	4,455	0	4,455	100%	3	3	4

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		28,120	4,455	2,379
財源内訳	国県支出金	23,430	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	4,690	4,455	2,379
一般財源の割合		17%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	各種計画策定は、市が実施しなければならない事業である。
②事業の必要性	4	高齢者福祉施策及び介護保険事業の運営基礎となるもので事業実施は必須である。
③受益の公平性	4	人口の約3割を占める高齢者を対象としている。
④ニーズの把握	3	計画策定にあたりR1年度に実施したニーズ調査結果を取り込んでいる。
⑤目標の達成度	4	計画策定業務が完了した。
⑥改善の取組状況	3	高齢者の生活の質の向上を目指し、自立支援のための効果的な介護予防の取り組みを推進するため、庁内関係課担当者会議を行った。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	国の制度改正、事業実績やアンケート(R1年度実施)結果に基づき、第9次犬山市高齢者福祉計画・第8次犬山市介護保険事業計画を策定した。
令和3年度に見直しを実施している事項	事業実績値と計画値に乖離が見られるようなら、計画の見直しを検討する。
今後見直しを検討する事項	市の実情に応じた計画となるよう、地域の特性の把握を図る。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
今後10～15年の期間において、総人口が減少するなか高齢者人口が増大するため、高齢者福祉サービスに要する費用の増加が見込まれる。	高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の進捗状況を適宜把握し、適正な事業実施に努める。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
3	1	3	老人福祉費	192

部局名	健康福祉部
課名	高齢者支援課

I : 事業概要

施策事業名	高齢者生きがい支援
事業目的	高齢者の生活を健全で明るい豊かなものにし、高齢者福祉の増進を図る。
事業内容	<p>●主な事業内容と決算の内訳</p> <p>○生きがい支援 ・敬老事業記念品：2,971,778円 新型コロナウイルスの影響で、75歳のつどいが中止となったため記念品を送付した。 数え100歳を迎えた方には祝金、満90歳の方には犬山茶を贈呈した。 また、ダイヤモンド婚・金婚祝いには犬山焼の夫婦湯飲みと犬山茶を贈呈した。</p> <p>○老人クラブ活動支援 ・老人クラブ連合会指導員派遣委託料：1,270,413円 ・老人クラブ連合会助成金：1,433,664円 ・単位老人クラブ助成金：2,232,000円 老人クラブ活動に伴う事務及び指導のため指導員派遣を委託した。 また、高齢期の豊かな生活に資するよう単位老人クラブや老人クラブ連合会の活動に助成した。</p> <p>○シルバー人材センター運営支援 ・シルバー人材センター運営費補助金：19,257,000円 高齢者のやりがい、生きがいづくりのひとつとして就労の機会を創出するため、シルバー人材センターの運営及び事業に要する経費に対し補助金を交付した。</p>
事業の成果・効果	各事業を通じて、高齢者の生きがいづくりの起点となる団体の支援や、高齢者が活躍できる場を確保し、生きがい・やりがいをもつ高齢者を増やした。

II : 個別事業内訳

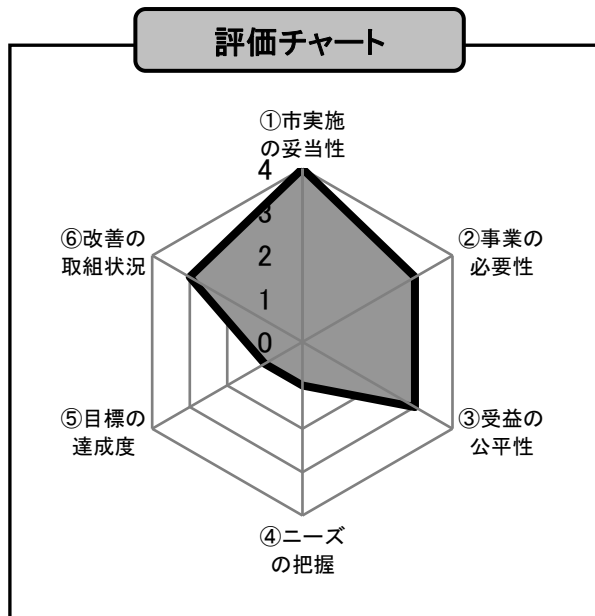
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
生きがい支援	3,807	0	3,807	100%	4	4	4
老人クラブ活動支援	5,787	1,364	4,423	76%	3	3	3
シルバー人材センター運営支援	19,257	0	19,257	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	28,851	1,364	27,487	95%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		36,726	28,851	34,848
財源内訳	国県支出金	1,687	1,364	1,529
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	35,039	27,487	33,319
一般財源の割合		95%	95%	96%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	団体への支援は老人福祉法等により市に義務付けられている。また、敬老事業は採算性がないため、民間での実施は難しい。
②事業の必要性	3	高齢者の生きがいづくりにつながる事業として継続する必要性はあるが、財政状況に応じた事業運営が望ましい。
③受益の公平性	3	特定団体の会員、金婚等一定の条件に達した高齢者が対象となる。
④ニーズの把握	1	ニーズ調査の実施をしていない。
⑤目標の達成度	1	高齢者の生きがい・やりがいづくりへの寄与が目的のため、目標設定にはなじまない。
⑥改善の取組状況	3	事業の継続・実施方法について関係団体との協議を進めている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	新型コロナウイルスの影響により、従来式典を開催していたものを記念品の配布のみにするなど規模の縮小に至った。
令和3年度に見直しを実施している事項	新型コロナウイルスの影響による事業活動の縮小を最小限とするため開催時期をずらしたり、関係団体と連携をより強めていく。
今後見直しを検討する事項	就労する高齢者の増加や価値観の多様化を見込んだうえで、適切な事業内容となるよう関係機関等と検討していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
趣味の多様化、定年延長など生涯現役社会の推進により、老人クラブやシルバー人材センター会員が減少傾向にある。	必ずしも旧態依然とした支援策の継続によるのではなく、社会の変化に合わせた適切な支援のあり方など、適宜協議を行いながら事業を進めていくとともに、団体を監督・指導していく。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
3	1	3	老人福祉費	192

部局名	健康福祉部
課名	高齢者支援課

I : 事業概要

施策事業名	高齢者生活支援
事業目的	日常生活に関する支援が必要な高齢者に支援を行うことで、在宅での生活が継続できるようにする。
事業内容	<p>●主な事業内容と決算の内訳</p> <p>○委託料</p> <ul style="list-style-type: none"> ひとりぐらし老人安否確認事業委託料（あらかじめ決められた曜日に本人へ電話等による連絡で安否確認をする。確認時体調不良等で訴えがあれば関係機関に伝え必要なサービス等につなげる。実人数21人/月平均、延べコール1,135回）：1,333,075円 <p>○扶助費</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅要介護者介護手当（3か月以上寝たきり状態又は認知症状が続き、自宅で常時介護している人に手当を支給。月額 8,000円）：16,760,000円 高齢者タクシー料金助成事業費（満85歳以上の高齢者の外出時の支援をするため、タクシーの基本料金を助成する。発行枚数：36,286枚 利用枚数：11,825枚 利用率 32.6%）：7,049,560円
事業の成果・効果	高齢者福祉サービスを提供することで、自立した生活を継続できるよう支援し、高齢者が安心して生活できる環境を確保した。

II : 個別事業内訳

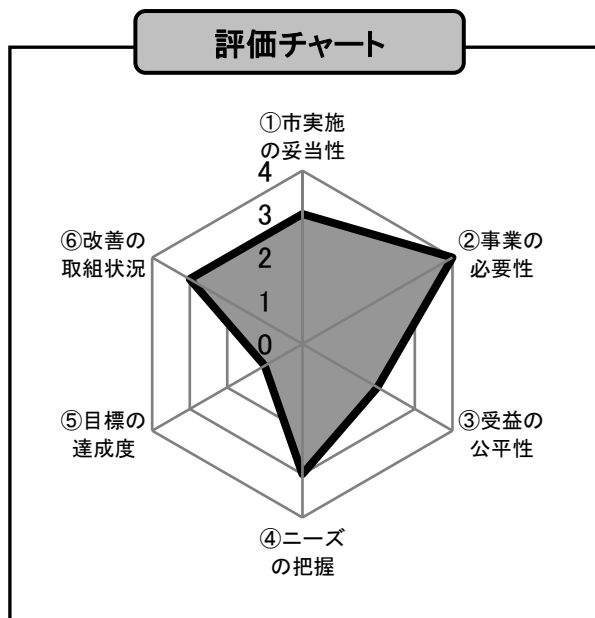
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
高齢者生活支援	27,577	0	27,577	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	27,577	0	27,577	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		23,803	27,577	33,624
財源内訳	国県支出金	0	0	11
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	120
	一般財源	23,803	27,577	33,493
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	高齢者福祉サービスは事業の趣旨から、採算性を求めることは難しい。
②事業の必要性	4	高齢者の在宅生活を支援するものであり、優先順位の高い事業である。
③受益の公平性	2	必要性が認められた高齢者が対象となる。
④ニーズの把握	3	サービスの必要性を把握するため、定期的にニーズ調査を行っている。
⑤目標の達成度	1	支援が必要な高齢者への福祉サービスであり、目標設定になじまない。
⑥改善の取組状況	3	高齢者生活支援事業として各種サービスを実施しており、利用方法や実施形態について、都度改善を行っている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	各事業が現状にマッチしているか確認を行なった。また、市民に分かりやすく事業内容が伝わるよう、高齢者福サービス一覧表の内容を見直した。
令和3年度に見直しを実施している事項	新事業（難聴高齢者補聴器助成事業、認知症高齢者等個人賠償責任保険事業）を実施した。 高齢者情報提供サービスを、見守りGPS購入費助成事業にリニューアルした。
今後見直しを検討する事項	サービス拡大により事業費が肥大しないよう注視しながら、他市町村の高齢者福祉サービス実施状況なども踏まえ、事業全体の見直しを行っていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の増加に伴いニーズが多様化している。	高齢者をとりまく社会構造の変化に合わせて、意向調査等を実施することで適正なサービスの提供に努める。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
3	1	3	老人福祉費	192

部局名	健康福祉部
課名	高齢者支援課

I : 事業概要

施策事業名	老人保護措置
事業目的	環境上、経済的理由により居宅に置いて生活することが困難となった高齢者を保護施設（養護老人ホーム等）に措置し、安定した日常生活を送れるようにする。
事業内容	<p>●主な事業内容と決算の内訳</p> <p>○報酬 ・老人ホーム入所判定委員会委員報酬（1回開催）：14,400円</p> <p>○扶助費 ・生活補給金（ホーム入所者で収入・預金額が少ない者に対し支給） ：月額 5,000円×30月（4名）＝ 150,000円</p> <p>・老人保護措置費（措置施設に対し市で定めた費用を支払う）：46,175,192円</p> <p>・高齢者短期入所事業費（家族等の都合で高齢者を養護できない場合に、一時的に施設へ入所を行うための費用） ：7,073円×17日＝ 120,241円</p>
事業の成果・効果	養護老人ホームへの入所措置により、居宅での生活が困難な高齢者へ生活の場所を提供するとともに社会復帰のための支援を行った。

II : 個別事業内訳

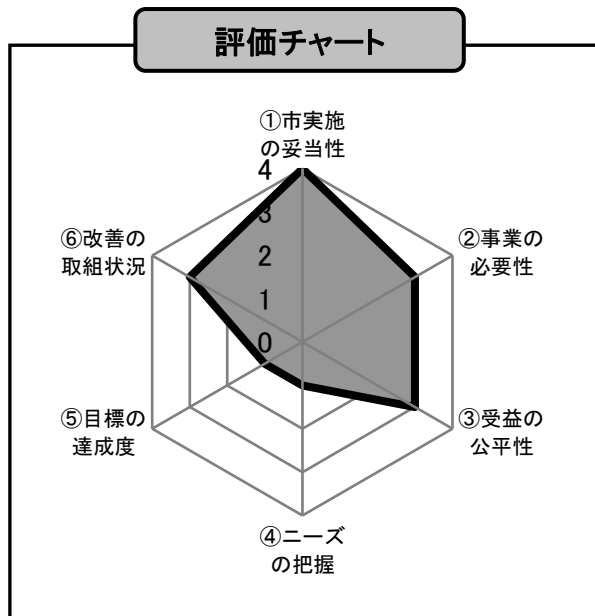
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
老人保護措置	46,460	2,609	43,851	94%	3	3	4
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	46,460	2,609	43,851	94%	3	3	4

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		53,580	46,460	56,696
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	3,256	2,609	3,232
	一般財源	50,324	43,851	53,464
一般財源の割合		94%	94%	94%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	老人福祉法第11条に基づき実施する事業である。
②事業の必要性	3	他の高齢者向け施設の整備が進んでおり、居宅での生活が困難となった高齢者の取りうる選択肢が増えてきている。
③受益の公平性	3	措置者からは、収入状況等に応じて負担金を徴収している。
④ニーズの把握	1	老人福祉法に基づき実施する事業であるため。
⑤目標の達成度	1	制度の主旨からすると目標を設定するはなじまないため。
⑥改善の取組状況	3	令和元年度より養護老人ホームの運営を市営から民間（社会福祉法人）に移管している。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	コロナ禍における環境の変化（会議・打合せの中止、直接面会ができない等）に対応するため、担当者間の連携を今まで以上に頻回に行った。
令和3年度に見直しを実施している事項	措置者の人数は不確定であるため、市民のために市内の養護老人ホームの入所枠を確保する一方、空室の有効活用をはかるため、契約入所の可能性について他の事例を踏まえ、事業者とともに研究する。
今後見直しを検討する事項	措置者の人数は不確定であるため、市民のために市内の養護老人ホームの入所枠を確保する一方、空室の有効活用をはかるため、契約入所の可能性について他の事例を踏まえ、事業者とともに研究する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
入所者のうち、加齢等による身体機能の低下により介護度が重度化している者もいることから、施設と連携しながら処遇方針を検討する必要がある。	措置者数は減少傾向にあるが、地域での生活ができない、家族との生活に何らかの理由があり支障が生じているなどの境遇にある高齢者の生活環境の改善のため必要な事業であり、引き続き措置を必要とする対象者に対し入所措置を行う。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
3	1	5	老人福祉施設費	194

部局名	健康福祉部
課名	高齢者支援課

I : 事業概要

施策事業名	高齢者福祉施設管理
事業目的	高齢者福祉施設を適正に管理・運営し、教養活動やレクリエーションの活動の場を提供することで、高齢者の心身の健康増進を図る。
事業内容	<p>●主な事業内容と決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者福祉施設管理 <ul style="list-style-type: none"> ・施設管理業務委託料（老人福祉センター・老人憩の家・高齢者活動センターの管理委託） ： 11,315,674円 ○高齢者福祉施設営繕 <ul style="list-style-type: none"> ・羽黒老人福祉センター駐車場整備工事請負費 : 990,000円 ・羽黒老人福祉センター屋根外壁防水塗装工事 : 1,595,000円 ・福祉活動センター多目的室2空調設備取替工事 : 1,210,000円 ○福祉活動センター管理 <ul style="list-style-type: none"> ・施設管理業務委託料（福祉活動センターの管理委託） : 1,602,689円
事業の成果・効果	レクリエーション、会議、趣味等の高齢者の生きがいにづくりに寄与する活動を行う場所を提供し、高齢者の健康増進等に繋げた。

II : 個別事業内訳

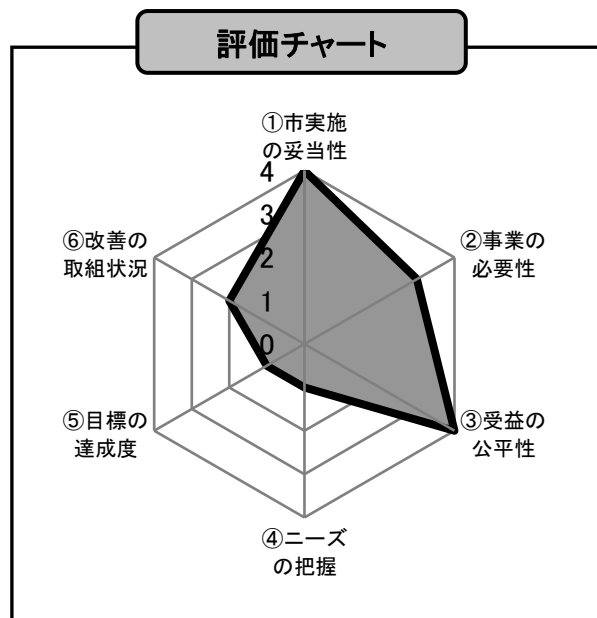
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
高齢者福祉施設管理	20,138	327	19,811	98%	3	3	1
高齢者福祉施設営繕	3,795	0	3,795	100%	3	3	1
福祉活動センター管理	5,486	1,052	4,434	81%	3	3	1
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	29,419	1,379	28,040	95%	3	3	1

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		37,043	29,419	30,673
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	1,684	1,379	1,437
	一般財源	35,359	28,040	29,236
一般財源の割合		95%	95%	95%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	老人福祉法により設置した施設（老人福祉センターは「老人福祉法第20条の7」、老人憩の家は「昭和40年厚生労働省通達 社老第88号」により設置）
②事業の必要性	3	老朽化による維持管理費の増加が見込まれるなか、利用実態等により適宜最適な供給を検討する。
③受益の公平性	4	人口の約3割を占める高齢者を対象とする事業である。
④ニーズの把握	1	老人福祉法等により利用方法が定められている。
⑤目標の達成度	1	利用にあたっての目標値は特に定めていない。
⑥改善の取組状況	2	利用者にとって安全で使いやすい施設となるよう、老朽化する施設を計画的に改修していく。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	施設営繕について計画的に実施するため、各施設の個別施設計画を策定した。
令和3年度に見直しを実施している事項	利用形態に合わせた施設の用途変更・所管替え（R3年度から地域協働課へ）により、羽黒東部老人憩の家を東ふれあいセンターとし、幅広い世代の利用が可能な形態とした。
今後見直しを検討する事項	地域ごとの稼働率の差、利用者の固定化などを踏まえ、既存の設置状況の維持継続が必要であるか検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
築後30～40年を経過し老朽化が進む施設が大半で、維持管理にコストがかかる。	利用実態の把握。優先順位をつけ、施設の修繕を適正に実施していく。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
3	1	3	老人福祉費	194

部局名	健康福祉部
課名	高齢者支援課

I : 事業概要

施策事業名	介護保険特別会計繰出金												
事業目的	介護保険の運営に係る市負担分及び低所得者の介護保険料の公費負担分を特別会計に繰出す。												
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●主な事業内容 法定及び法定外の費用を負担する。 ●経費の内訳 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>法定</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 介護給付費</td> <td style="text-align: right;">678,731,000円</td> </tr> <tr> <td> 地域支援事業費</td> <td style="text-align: right;">53,002,000円</td> </tr> <tr> <td> 低所得者保険料軽減負担分</td> <td style="text-align: right;">48,744,400円</td> </tr> <tr> <td>法定外</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 事務費</td> <td style="text-align: right;">72,188,000円</td> </tr> </table> 	法定		介護給付費	678,731,000円	地域支援事業費	53,002,000円	低所得者保険料軽減負担分	48,744,400円	法定外		事務費	72,188,000円
法定													
介護給付費	678,731,000円												
地域支援事業費	53,002,000円												
低所得者保険料軽減負担分	48,744,400円												
法定外													
事務費	72,188,000円												
事業の成果・効果	一般会計から介護保険特別会計に繰出金を支出し、介護保険事業を運営した。												

II : 個別事業内訳

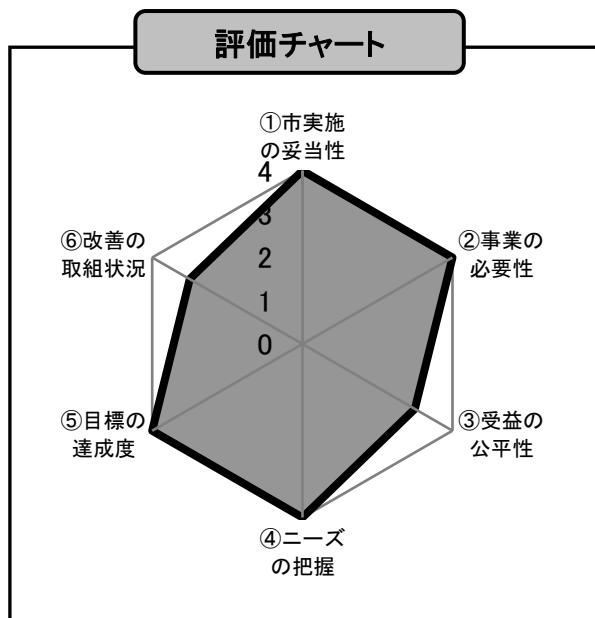
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
介護保険特別会計繰出金	852,665	36,128	816,537	96%	4	4	1
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	852,665	36,128	816,537	96%	4	4	1

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		771,059	852,665	760,200
財源内訳	国県支出金	20,079	36,128	38,250
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	750,980	816,537	721,950
一般財源の割合		97%	96%	95%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	介護保険法第124条により一般会計から特別会計に繰出する。
②事業の必要性	4	介護保険事業を運営していく上で必要な事業。
③受益の公平性	3	要介護認定者へサービスを提供する。
④ニーズの把握	4	介護保険事業計画(3年毎)を策定する上で、利用者以外を含む市民に対し、ニーズ把握のためのアンケートを実施している。
⑤目標の達成度	4	介護保険事業計画に基づき運営することができた。
⑥改善の取組状況	3	介護保険事業計画に基づき運営するものである。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	国の制度改正、事業実績やアンケート(R1年度実施)結果に基づき、第9次犬山市高齢者福祉計画・第8次犬山市介護保険事業計画を策定した。
令和3年度に見直しを実施している事項	策定した介護保険事業計画に基づき、事業の進捗管理及び評価を行う。
今後見直しを検討する事項	策定した介護保険事業計画に基づき、事業の進捗管理及び評価を行う。また、利用者以外を含む市民に対し、ニーズ把握のためのアンケートを実施していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
介護保険事業計画に基づき事業運営をしているが、高齢者の増加に伴い事業費の増加が見込まれる。	第8次犬山市介護保険事業計画に基づき、サービスを適正に行っていく。

令和2年度 決算説明書 / 事業評価シート

特別会計名	決算書(P)
介護保険特別会計	436

部局名	健康福祉部
課名	高齢者支援課

I：事業概要

施策事業名	介護保険事業
事業目的	高齢者が地域で安心して暮らしていけることを目指すとともに、いつまでも自立した生活を送れるよう支援する。
事業内容	<p>●全体計画 第7次犬山市介護保険事業計画（平成30年度～令和2年度）に基づいて、介護保険事業を適切に運営する。</p> <p>●主な事業内容と決算の内訳 被保険者の資格管理、保険料の算定、賦課、要介護認定、介護給付、地域支援事業等の事業を実施する。</p> <p>○保険給付費 要介護者への介護給付、要支援者への予防給付 4,599,669,701円</p> <p>○地域支援事業費 介護予防・日常生活支援総合事業、包括的支援事業など 290,112,380円 ・当初からの追加事業</p> <p>【①6月補正予算計上：県10/10委託金 ②9月補正予算計上：国10/10補助金】</p> <p>①高齢者移動支援事業…運転に不安を持つ高齢者が自家用車に依存しなくても生活できるよう、地域住民等がドライバーとなり、高齢者の移動を継続的に支援できる環境を作るための実証実験を行う。今年度は部会の設置、アンケート調査を実施しニーズの分析を行った。 1,727,022円 事業期間：令和2年度～令和4年度の3年間</p> <p>②高齢者生きがい活動促進事業…高齢者が農作業や農作物の栽培・販売・調理等をおして、生きがい・役割づくり・運動機能低下・認知症・閉じこもり等の予防を図るなど、農福連携を通じ、高齢者が地域で交流し生き生きと活動できる場の提供に資する活動等の立ち上げ支援を行った。 1,971,900円 事業期間：令和2年度</p> <p>●関係する法令、条例等 介護保険法、犬山市介護保険条例等</p>
事業の成果・効果	被保険者が要介護状態になることを予防するとともに、要支援・要介護状態になった場合に、その有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう必要な介護予防・介護サービスに係る給付を行った。

II：個別事業内訳

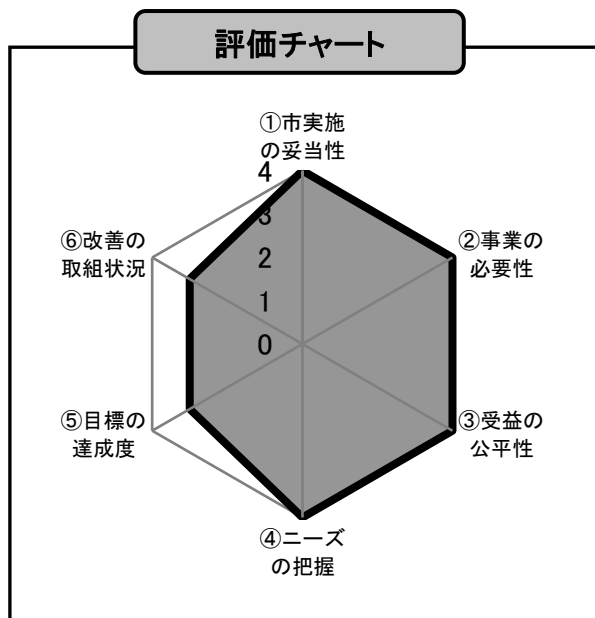
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	利便性向上	サービス水準
介護保険給付事業	4,599,670	3,607,070	992,600	22%	4	4	1
地域支援事業	290,112	258,078	32,034	11%	3	3	3
その他事業	494,502	73,888	420,614	85%	4	4	1
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	5,384,284	3,939,036	1,445,248	27%	3	3	1

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R1決算	R2決算	R3予算
		5,021,134	5,384,284	5,375,729
財源内訳	国県支出金	1,844,804	1,843,800	1,868,554
	地方債	0	0	0
	その他	2,142,128	2,095,236	2,089,773
	一般財源	1,034,202	1,445,248	1,417,402
一般財源の割合		21%	27%	26%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	介護保険法に基づく介護保険事業
②事業の必要性	4	介護保険事業を運営していく上で必要な事業
③受益の公平性	4	要介護認定者へサービスを提供する。 地域支援事業については、介護保険被保険者が対象となる。
④ニーズの把握	4	高齢者福祉計画・介護保険計画(3年毎)を策定する上で、利用者以外を含む市民に対しニーズ把握のためのアンケートを実施している。
⑤目標の達成度	3	介護保険事業計画に基づき運営することができた。
⑥改善の取組状況	3	介護保険事業計画に基づき運営することができた。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和2年度に見直しを実施した事項	国の制度改正、事業実績やアンケート(R1年度実施)結果に基づき、第9次犬山市高齢者福祉計画・第8次犬山市介護保険事業計画を策定した。国・県の補助金等を活用し地域支援事業(高齢者生きがい活動促進、高齢者移動支援)を行った。
令和3年度に見直しを実施している事項	策定した介護保険事業計画に基づき、事業の進捗管理及び評価を行う。高齢者移動支援については、ニーズ結果に基づき実証実験を行う。
今後見直しを検討する事項	策定した介護保険事業計画に基づき、事業の進捗管理及び評価を行う。また、利用者以外を含む市民に対し、ニーズ把握のためのアンケートを実施していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和2年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
介護保険事業計画に基づき事業運営をしているが、高齢者の増加に伴い事業費の増加が見込まれる。高齢者移動支援については、アンケートから現状のニーズは低い、近い将来(5年後)への不安はあるとの結果が出たが、具体的な活動につながっていない。	第8次犬山市介護保険事業計画に基づき、サービスを適正に行っていくとともに、次期計画に向け、ニーズ把握のためのアンケートなどを実施していく。高齢者移動支援については、実証実験をもとに、サービスの必要性を見極めていく。